

CISPR H 小委員会 第 1 作業班(WG1) 国際会議(2021/02/08)審議結果

- * H/JWG6 にて議論された、スマートメータ(低速の電力線通信)保護のための 150 kHz 以下の許容値案についてWG1による審議機会を設けるために 2 回開催。
- * 主な論点は、無線保護に対する許容値案の妥当性、5%以下の非量産製品に対する緩和に関する注記、スイッチング周波数基本周波数近傍における緩和の提案
- * 審議項目以外の定型的な議事項目の記載は省略

審議番号/審議項目名	審議内容	審議結果
1. 開会	2021年2月8日 14:30 – 16:30 CET 22:30 – 24:30 JST	コンビーナ Griffin 氏が開会を宣言 日本からは、雨宮、長部、後藤、前川、松本、山中、久保田（以上電波利用環境員会構成員・関係者）の7名が参加。 国外参加者 SC-H 議長：T.Kootz (DE), SC-H 副議長：M. Wright (GB) WG1 コンビーナ：A. Griffin (US), WG1 副コンビーナ：B. Jaekel (DE), JW6 コンビーナ：F. Deter (DE) 他、独、仏、フィンランド、ノルウェー、カナダ、IARU 等 計 22 名が参加
2. メンバシップ		新規登録メンバーの紹介
3. 前回議事録と要 処置事項の確認	20-05 CISH_WG8_RM St Petersburg 20200129	今回は 150 kHz 以下の許容値の議題のみであるため、次回の H/WG1 において確認することとなった。
4. 議事		
4.1 JWG6 における 議論の経緯		コンビーナが経緯とスケジュールについて紹介。JWG6 が CD を回付する前のステップとして、H/WG1 メンバーで議論する機会を設け、次週の JWG6 で WG1 の意見を検討する。
4.2 共通エミッショ ン規格 IEC61000- 6-3 のドラフト CD の提案	Latest Draft (DTS) IEC TS 62578- 2015.pdf CIS_H_WG1_WebFeb_G riffin1 Draft WG1 Comments.doc	WG1 コンビーナ Griffin 氏から許容値案および背景情報 (Informative Annex) について紹介。 JWG6 コンビーナ Deter 氏から、Annex : SC77A における MCS(電力線通信)保護のためのコンパチビリティレベル設定の経緯と JWG6 における許容値案検討経緯を紹介。 Griffin 氏から各 Annex（無線保護のための許容値検討および積算許容値）について、ごく簡単に紹介。 また、他の既存 CISPR 許容値との比較を紹介。 Wright 氏：CISPR ポリシーでは新たな許容値設定の際に ITU-R に通知することになっているが確認済みか？ Griffin 氏：未だである。

審議番号/審議項目名	審議内容	審議結果
		<p>Deter 氏：ITU-R への通知は SC-H 内での許容値の合意の後になるとの見解。</p> <p>普及率 5%以下の装置に対する緩和について議論が行われた。</p> <p>Griffin 氏：許容値表の注に記載の製品規格の列挙では、緩和対象となる製品の定義が不明確。</p> <p>Deter 氏：普及率 5%以下の大量生産でない装置である。この注記は、積算許容値の (informative)導入と併せて JWG6 で合意されたものである。</p> <p>Griffin 氏：装置の製造者は、この緩和条件が満たされるか否かを実際にどう判断して適用するのか。</p> <p>雨宮委員：この注記は non-technical requirement であるから、明確な warning notes を付けるべきである。(例：CISPR 11 の大容量 GCPC の DC ポート許容値)</p> <p>スイッチング電源の基本周波数近傍における緩和の提案について議論が行われた。</p> <p>Griffin 氏：資料 Draft WG1 Comment および CISPR/H/WG1/WEBCON (Griffin1)2021-1 を紹介。一部のスイッチング周波数で許容値を満足できない例が少なくない。製品群規格に反映された際に、再設計が必要となるケースが多いと思われる。基本周波数の上下 600Hz のみ 10dB の緩和を提案。</p> <p>予定審議時間を超過したため、今後必要な作業についての議論に移行</p> <p>Jaekel 氏：現時点では本件は SC-H の正式タスクになっていないので、DC による意見照会もしくは IEC61000-6-3 の改定の RR の発行が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翌週予定 (2/15 予定) されている JWG6 において、ドラフト CD に対する WG1 からのコメント・提案について審議することとする。 ・SC-H 議長、WG1、JWG6 の各コンビーナおよび SC77A Officer で打合せを行い、以降の議論の進め方やスケジュールについて (RR 発行、DC・CD 回付等) を協議・確認する。
5. 閉会		閉会

CISPR SC-H/WG1 Web 会議(2021/03/05)審議結果

審議番号/審議項目名	審議内容	審議結果
1. 開会	2021年3月5日 14:00 – 16:00 CET 22:00 – 24:00 JST	コンビーナ Griffin 氏が開会を宣言 日本からは、雨宮、長部、後藤、島先、松本、山中、久保田（以上電波利用環境員会構成員・関係者）の7名が参加。 国外参加者 SC-H 議長：T.Kootz (DE), SC-H 副議長：M. Wright (GB) WG1 コンビーナ：A. Griffin(US), WG1 副コンビーナ：B. Jaekel (DE) JW6 コンビーナ：F. Deter (DE), JW6 コンビーナ：Cédric Lavenu(FR) 他、仏、伊、韓国、フィンランド等。 計 22 名が参加
2. 議事次第の確認	21-03 CIS_H_WG1 DA	コンビーナが今回の議題を紹介
3. 議事		
3.1 JWG6 リエゾン 150kHz 以下の電源 線伝導妨害波許容 値	JWG6における議論の経緯 Latest Draft CIS-H-JWG-6_2021-01-15_Deter_draft-CD-IEC-61000-6-3_rev03_WebCon CIS_H_JWG6_WebFeb_GriffinWeisKussyk (DTS) IEC TS 62578-2015.pdf CIS_H_WG1_WebFeb_Griffin1	WG1 コンビーナ Griffin 氏からこれまでの JWG6 での検討状況について紹介。 許容値緩和の対象となる設置数 5%以下の非量産装置に関する注記について議論が行われた。 Griffin 氏：IEC 62040-2 はあらゆるタイプの UPS をカバーする。また IEC 61204-3 は通常のスイッチング電源であり、他製品の一部としても機能する。ともに数量を 5%とする根拠の説明が困難。 次いで CISPR/H/JWG6/WEB (Griffin, Weis, Kussyk)に記載された注記の代替案 1, 2 について説明があった。(いずれも IEC 61204-3 を削除した案) Lavenu 氏：SC77A における背景情報を補足。5%を対象とした緩和は、IEC61000-2-2 においてコンパチビリティレベルを合意した際の条件である。 注記の記載方法について議論が継続し、Wright 氏より 5%を記載しない注記の案の提案があった。 雨宮委員：この注記は非技術的要求であり、干渉の発生の防止を保証していない。10%でなく 5%に特定する根拠は何か。この数字の解釈は国によって異なる。何等かの追加記載が必要ではないか。 Gonzalez 氏：5%は IEC61000-2-2 を定めた際の検討結果である。MCS の保護条件に起因する。 Deter 氏：日本では 150kHz 以下を用いる MCS は少ないと思われる。 Lavenu 氏：ECHONET (G3-PLC 規格) の仕様周波数は 154-450 kHz である (TTC JJ-300.11v2 によれば細かくは 154,7-403,1 kHz)。 本 WG1 での議論の要旨を JWG6 に送付することとする。
3.2 最新 CD 案に対する WG1 からのコ	Draft comment by WG	資料に沿って WG1 メンバーからの CD 案に対するコメントについて審議 Kootz 氏から無線保護の検討結果の解説 (MCS 保護のための IEC61000-2-2 のコンパチビリティレベ

審議番号/審議項目名	審議内容	審議結果
メント		<p>ルが先に定められ、これが無線保護に対して問題ないかを確認したもの)</p> <p>Jaekel 氏：20kHz 帯の許容値について、海事通信では受信機が妨害波源から遠方である。確率要素は大きくできるのではないか。</p> <p>Jaekel 氏：DM 妨害波による無線通信への干渉モデルにおけるループサイズの根拠を確認。</p> <p>Kootz 氏から根拠を説明（サーキットブレーカ、分電盤のサイズから 1m×1m の最大ループを想定）最悪ケースとして概ね妥当ではないかとの回答。</p> <p>Griffin 氏：スイッチング電源の基本周波数近傍の緩和案について提案 （発言者不明）：基本周波数近傍における緩和案は、WPT と同様に基本周波数範囲を限定しない限り、適用すべきでない。</p> <p>Wies 氏：この案は SC77A で定めたコンパチビリティレベルを満足しない。</p> <p>Deter 氏：CISPR32 は住宅地でも警告付きでクラス A 装置を許容している。共通規格とは異なる許容値を導入可能ではないか。</p> <p>雨宮委員：もし ITE 機器が WPT で給電されて動作する場合に IM 成分が発生して、基本波以外でも許容値を超える恐れはないか検討が必要。</p> <p>WG1 におけるコメントを JWG6 に送付することとする。</p>
3.4 IEC61000-6-3 の RR 案	WG Draft	<p>Jaekel 氏：現時点では本件は SC-H の正式タスクになっておらず、IEC61000-6-3 改定には RR の発行が必要。改定項目案について審議が必要である。各案件は Fragment CD として回付の見込み。</p> <p>雨宮委員：公共 DC 電源供給ポートの許容値導入について。公共 AC 電源網を構成する変圧器の代わりに、公共 DC 電源網では DC/DC 変換器が用いられるが、それ自体が妨害波を発生することに注意が必要。次回の改定では、上記のような公共 DC 電源供給網の中にある（電源網を構成する）DC/DC 変換器を対象に含むのか？</p> <p>Kootz 氏：公共 DC 電源網に接続されるポートを持つ機器（Kootz 氏の回答は公共 DC 電源網の外側にある機器と思われる）が対象である。</p> <p>次回改正に含まれる 7 件の内、①9kHz～150kHz の許容値のレビューは完了。 （本 WG1 の結果に関する JWG6 での審議結果に基づき IEC61000-6-3 改定案の DC が回付された）</p> <p>その他の共通エミッション規格に関する各改定項目について確認が行われた。</p> <p>②30MHz 未満の放射磁界エミッション要件：CD 案作成中。WG1 の次回は本件を検討</p> <p>③1GHz から 6GHz までの放射エミッション要件：担当 Griffin 氏</p> <p>④DC 電源ポートの要件：完了(従来の AC 電源網と同様のネットワークトポロジーの場合に限る)</p> <p>⑤無線搭載機器：担当未定</p> <p>⑥6GHz から 40GHz までの放射エミッション要件：担当 Kootz 氏</p>
4. 次回会議の日程		要処置事項②の完成後1か月後を目途に調整する。
5. 閉会		閉会

